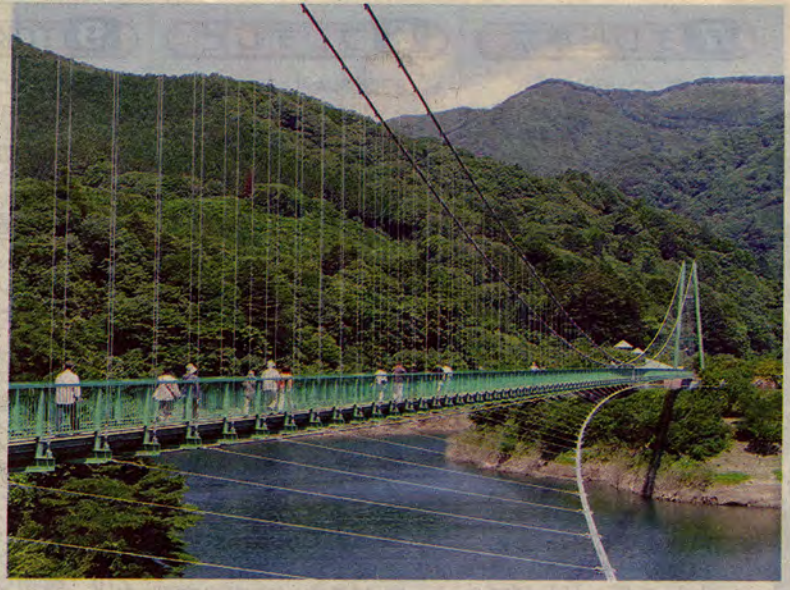
地域一丸 恋を橋渡し



絶景が楽しめるもみじ谷大吊橋＝栃木県那須塩原市で（たかはら森林組合提供）

那須塩原・もみじ谷大吊橋

熱心誘客で「聖地」大賞

プロポーズの舞台にふさわしい観光地「恋人の聖地」に認定されている栃木県那須塩原市の「もみじ谷大吊橋」が、地元と連携した誘客に熱心な聖地に贈られる「恋人の聖地　観光交流大賞」を受賞した。高さ二十メートル以上の橋から望む渓谷は迫力満点。担当者は「心拍数の上昇が好意につながる『つり橋効果』も期待できる。人生を共にする二人に、手を携えて歩いてほしい」と語る。（大野暢子）

「橋から眺める新緑がきれい。自然豊かな場所でのプロポーズというのも、新鮮でいいかも」。大型連休を利用し、恋人同士で訪れた水戸市の地方公務員、菊地彩夏さん（二三）ははにかんだ。

塩原ダム湖にかかるこのつり橋は、全長約三百二十メートルで、往復十五～二十分の空中散歩が楽しめる。新緑や紅葉の時期を中心に、年間十八万人前後が訪れる。

静岡市のNPO法人「地域活性化支援センター」から二〇一三年、恋人の聖地に認定された。誘客への期待が高まったが、全国に百カ所以上ある他の聖地との差別化を図るため、運営を担う「たかはら森林組合」（栃木県矢板市）は次の一手を迫られた。

そこで一四年秋、聖地の新たな象徴として、対岸の広場に仲むつまじく見つめ合うクマタカのつがいの木像を設置。クマタカは周辺の山に生息するとされる希少な野鳥で、二つの像は直径約八十センチある一本の県産杉から彫り上げられた。

像の前にハート形の木の椅子を置き、恋人の聖地をアピールする金の板を設けると、狙い通り、像の前で記念撮影をするカップルが増加。ハート形の葉をした「カツラ」の木で作った丸い板に赤いひもを結んだ「愛結び」（一個税込み三百円）を販売し、二人の名を書いて像を囲む柵に結び付けてもらう試みも始めた。

地元郵便局の協力を得て「手紙を投函すると幸せになれる」とうたったピンク色の丸形ポストも設置。見どころの少ない春先の景観づくりのため、対岸広場や地域の空き地で、赤や白、ピンクの花を咲かせるハナモモの植樹も進めている。

こうした地域ぐるみの活動が認められ、橋は今年三月、地域活性化支援センターの募集に名乗りを上げた全国の観光地五十八カ所の中から、昨年の長野県大町市に続く第二回の観光交流大賞に選ばれた。田代和利・管理事務所長は「カップルの来場者は年々増えつつある。口コミで魅力が伝わり、幸せが幸せを呼ぶ観光地が目標です」と話した。

もみじ谷大吊橋　橋幅は約1・5メートルで、徒歩のみで渡れる。1999年、那須塩原市が誘客を目的に建設。年中無休で、営業時間は午前8時半～午後6時（11～3月は4時まで）。通行料は大人300円、65歳以上と小中学生は200円、幼児は無料。JR那須塩原駅から車で約40分、東北自動車道西那須野塩原インターチェンジからは車で約15分。

絶景を楽しんだ後、クマタカのつがいの像を訪れたカップル